
第 1 章

平成20年の福島県経済の概況

第1章 平成20年の福島県経済の概況

総合判断

平成20年の福島県経済は、年前半は、個人消費、雇用情勢において弱い動きが続いたものの、生産活動は高水準で推移した。しかし、年後半には、世界的金融危機と実体経済の悪化を背景に、生産活動は減少を続け、雇用情勢が厳しさを増すなど、悪化していった。

日本経済は、平成14年1月から戦後最長となる景気回復期(69か月)にあったが、平成19年10月を山(暫定)として景気後退局面に突入した。

平成20年の日本経済は、上半期は原油・原材料価格高騰の影響を受けて減速し、下半期は世界金融危機を背景とした金融市場の悪化が実体経済の悪化へと波及した。海外景気の後退と急激な円高等により、企業収益が大幅に悪化し、製造業で減産の動きが拡がり、大規模な雇用調整が行われるなど、企業部門は厳しい状況が続いた。また、景気後退を受け、消費者の生活防衛意識が高まり、家計部門では弱い動きが続いた。(図1, 図2)

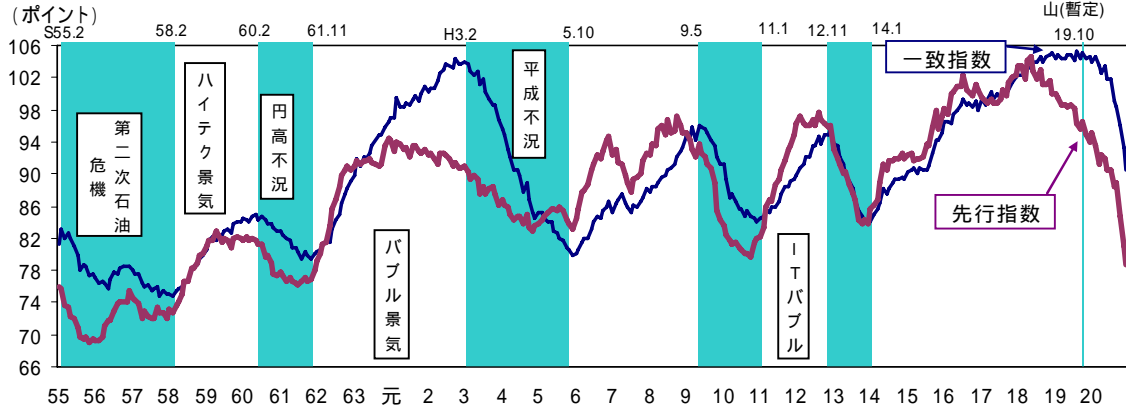
このような中で、平成20年の福島県経済を振り返ると、平成19年12月を山(暫定)とした第14景気循環の景気後退期に突入しており、上半期は、前年からの原油・原材料価格高が継続する中、生産活動は生産・出荷の好調さが在庫増を補う動きとなり高水準で推移したものの、雇用情勢は弱い動きが続き、個人消費は弱含みで推移した。

しかし、下半期、世界金融危機が実体経済の悪化へと波及していったことを背景として、生産活動は生産調整が急速に進み、減少を続けるとともに、雇用情勢は厳しさを増し、個人消費も弱い状態で推移した。さらに、企業倒産件数は201件と前年を大きく上回った。負債総額は前年にあったような大規模倒産がなかったこともあり、前年を下回ったものの、予断を許さない状況となった。

以上のとおり、平成20年の福島県経済は、年前半は、個人消費、雇用情勢において弱い動きが続いたものの、生産活動は高水準で推移した。しかし、年後半には、世界的金融危機と実体経済の悪化を背景に、生産活動は減少を続け、雇用情勢が厳しさを増すなど、悪化していった。(図3)

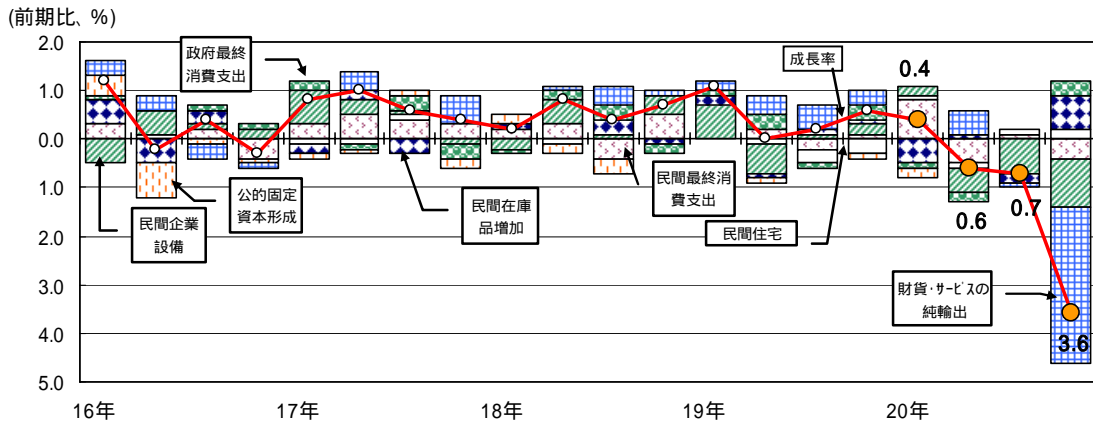
図1 景気動向指数 CIGラフ(国)

(H17=100)



備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」より作成。)
 2 (シャドウの部分は日本経済の景気後退期を示している。)
 3 (各景気の名前は正式なものではなく通称を付したものである。)

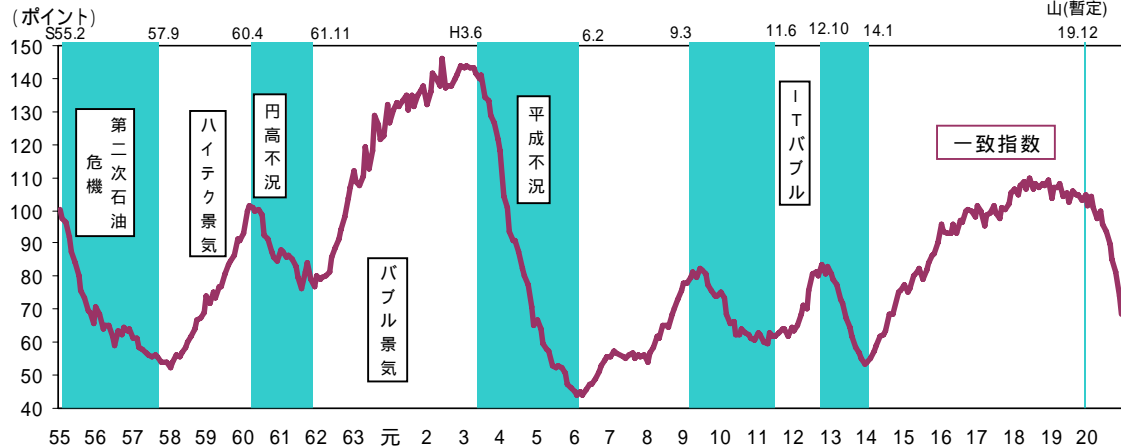
図2 国内総生産(GDP)成長率及び寄与度(実質、季節調整系列)



備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「需要項目別時系列表データ(連鎖方式)」より作成。)
 2 (平成12暦年連鎖価格。)
 3 (93SNA。)

図3 景気動向指数 一致CIGラフ(県)

(H17=100)



備考 1 (福島県統計分析課「福島県景気動向指数」より作成。)
 2 (シャドウの部分は福島県経済の景気後退期を示している。)
 3 (各景気の名前は正式なものではなく通称を付したものである。)

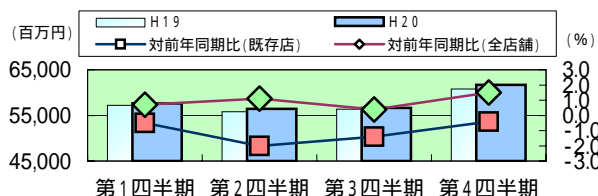
主要経済指標の概要

個人消費 変化方向 **原油・原材料価格高騰、世界的金融危機等を背景にした生活防衛意識の高まりから弱い状態が続いた。**

- (1) **大型小売店販売額**は全店舗ベースで総額2,323億9,500万円、対前年比0.9%増となり、2年振りに前年を上回った。 詳細は、P11に掲載

(単位:百万円、%)

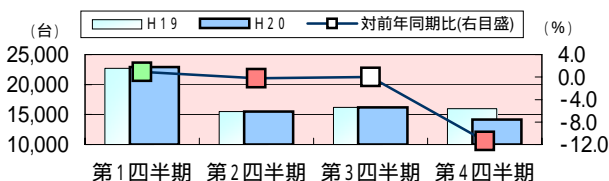
	販売額	対前年同期比 対前年比(全店舗)	対前年同期比 対前年比(既存店)
第1四半期	57,624	0.7	0.5
第2四半期	56,436	1.1	2.0
第3四半期	56,644	0.4	1.4
第4四半期	61,691	1.5	0.4
H20年	232,395	0.9	1.1



- (2) **乗用車新規登録台数**は68,798台、対前年比2.3%減となり、8年連続で前年を下回った。 詳細は、P13に掲載

(単位:台、%)

	登録台数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	22,913	0.9
第2四半期	15,490	0.2
第3四半期	16,216	0.0
第4四半期	14,179	11.4
H20年	68,798	2.3

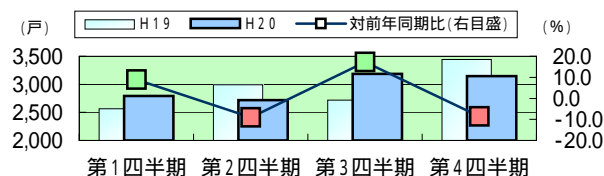


建設需要 変化方向 **依然、低い水準で推移した。**

- (1) **新設住宅着工戸数**は11,853戸、対前年比1.1%増となり、2年振りに前年を上回った。 詳細は、P15に掲載

(単位:戸、%)

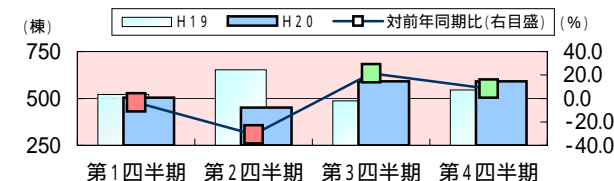
	着工戸数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	2,795	8.9
第2四半期	2,721	9.0
第3四半期	3,188	17.2
第4四半期	3,149	8.6
H20年	11,853	1.1



- (2) **業務用建築物着工棟数**は2,140棟、対前年比3.1%減となり、3年連続で前年を下回った。 詳細は、P17に掲載

(単位:棟、%)

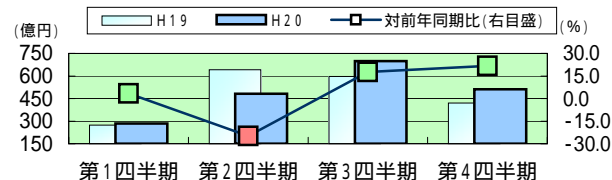
	着工棟数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	505	3.3
第2四半期	452	30.8
第3四半期	592	21.3
第4四半期	591	8.4
H20年	2,140	3.1



- (3) **公共工事請負金額**は1,978億円、対前年比2.4%増となり、9年振りに前年を上回った。 詳細は、P19に掲載

(単位:億円、%)

	請負金額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	284	3.5
第2四半期	482	24.9
第3四半期	700	17.6
第4四半期	512	21.7
H20年	1,978	2.4

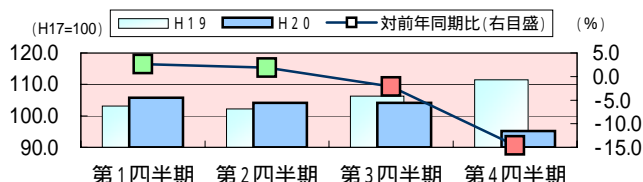


生産活動 変化方向 **前半は高水準を維持したが、後半は生産調整が急速に進むなど減少を続けた。**

(1) **鉱工業生産指数**は102.3 (H17=100)、対前年比3.3%減となり、4年振りに前年を下回った。 詳細は、P21に掲載

(単位: H17=100、%)

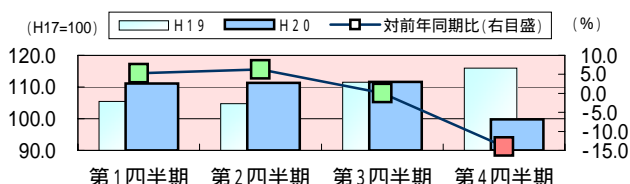
	生産指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	105.8	2.6
第2四半期	104.1	1.9
第3四半期	104.1	2.1
第4四半期	95.2	14.6
H20年	102.3	3.3



鉱工業出荷指数は108.5 (H17=100)、対前年比0.8%減となり、5年振りに前年を下回った。

(単位: H17=100、%)

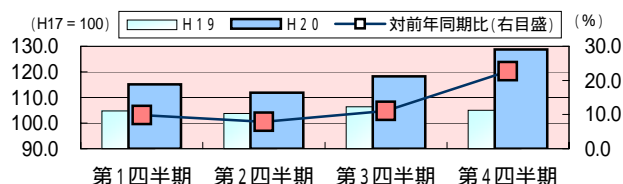
	出荷指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	111.1	5.3
第2四半期	111.3	6.3
第3四半期	111.6	0.1
第4四半期	99.8	14.0
H20年	108.5	0.8



鉱工業在庫指数は118.5 (H17=100)、対前年比12.9%増となり、4年連続で前年を上回った。

(単位: H17=100、%)

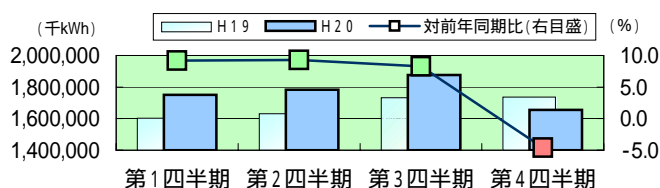
	在庫指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	115.1	9.8
第2四半期	111.9	7.9
第3四半期	118.2	11.1
第4四半期	128.8	22.7
H20年	118.5	12.9



(2) **大口電力使用量**は約7,065百万kWh、対前年比5.4%増となり、10年連続で前年を上回った。 詳細は、P25に掲載


(単位: 千kWh、%)

	使用量	対前年同期比 対前年比
第1四半期	1,749,947	9.2
第2四半期	1,782,399	9.3
第3四半期	1,876,650	8.3
第4四半期	1,655,779	4.6
H20年	7,064,775	5.4



(四半期値は、月値の平均値)

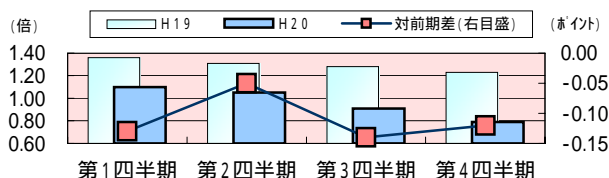
- 備考 1 指標名が**緑字**の場合には、前年より指標が改善したことを表し、指標名が**赤字**の場合には、前年より指標が悪化していることを表しています。
- 2 ■ 図が左図の色の場合は、年ベースで見た場合に前年より指標が改善したことを表し、■ 図が左図の色の場合には、前年より指標が悪化したことを表しています。
- 3 — 図中の折れ線グラフの色が左図の場合には、四半期ベースで見た場合に前年同期(又は前期)より指標が改善したことを表し、— 図中の折れ線グラフの色が左図の場合には、前年同期(又は前期)より指標が悪化したことを表しています。

雇用・労働 変化方向  雇用は弱い動きから、次第に厳しさを増していった。
労働は弱い動きが続いた。

- (1) **新規求人倍率**(原指数)は0.96倍、対前年差0.34ポイント低下し、6年振りに前年を下回った。 詳細は、P27に掲載

(単位:倍、ポイント)

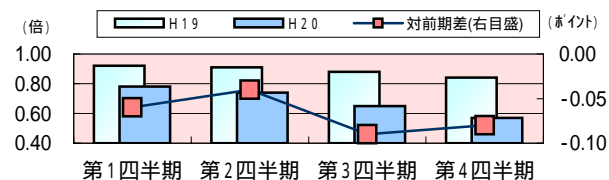
	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	1.10	0.13
第2四半期	1.05	0.05
第3四半期	0.91	0.14
第4四半期	0.79	0.12
H20年	0.96	0.34



- (2) **有効求人倍率**(原指数)は0.68倍、対前年差0.21ポイント低下し、6年振りに前年を下回った。 詳細は、P29に掲載

(単位:倍、ポイント)

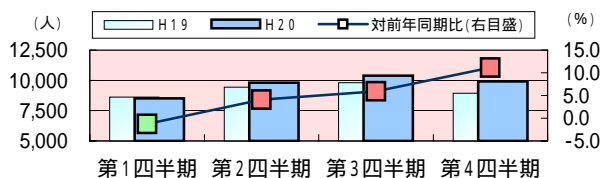
	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	0.78	0.06
第2四半期	0.74	0.04
第3四半期	0.65	0.09
第4四半期	0.57	0.08
H20年	0.68	0.21



- (3) **雇用保険受給者実人員**は年間平均で1か月当たり9,658人、対前年比5.0%増となり、6年振りに前年を上回った。 詳細は、P29に掲載

(単位:人、%)

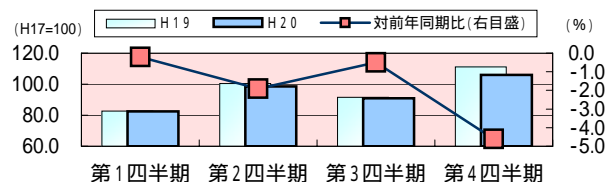
	受給者実人員	対前年同期比 対前年比
第1四半期	8,509	1.3
第2四半期	9,815	4.1
第3四半期	10,386	5.9
第4四半期	9,921	11.1
H20年	9,658	5.0



- (4) **現金給与総額指数**は94.5 (H17=100)、対前年比2.0%減となり、2年連続で前年を下回った。 詳細は、P33に掲載

(単位:H17=100、%)

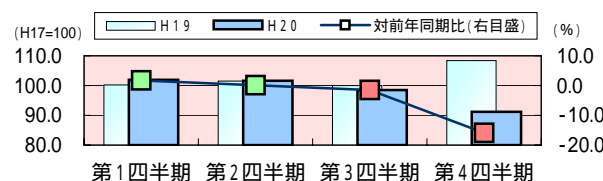
	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	82.4	0.2
第2四半期	98.5	1.9
第3四半期	91.0	0.5
第4四半期	106.0	4.6
H20年	94.5	2.0



- (5) **所定外労働時間指数**は98.3 (H17=100)、対前年比4.1%減となり、2年振りに前年を下回った。 詳細は、P33に掲載

(単位:H17=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	101.9	1.7
第2四半期	101.6	0.1
第3四半期	98.5	1.5
第4四半期	91.2	15.9
H20年	98.3	4.1

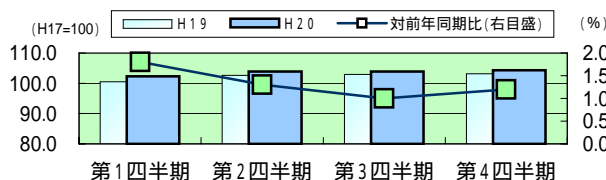


- (6) **常用雇用指数**は103.6 (H17=100)、対前年比1.3%増となり、3年連続で前年を上回った。

詳細は、P35に掲載

(単位: H17=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	102.3	1.8
第2四半期	103.9	1.3
第3四半期	103.9	1.0
第4四半期	104.3	1.2
H20年	103.6	1.3

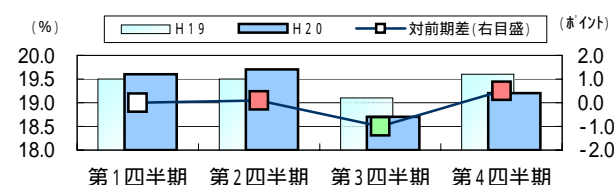


- (7) **パートタイム労働者比率**は19.4%、前年と同率となった。

詳細は、P35に掲載

(単位: %, ポイント)

	労働者比率	対前期差 対前年差
第1四半期	19.6	0.0
第2四半期	19.7	0.1
第3四半期	18.7	1.0
第4四半期	19.2	0.5
H20年	19.4	0.0



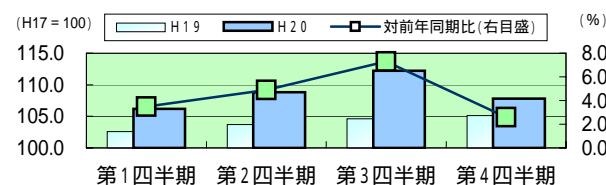
物 価 変化方向 **前年を上回る動きが続いた。**

- (1) **国内企業物価指数**は108.8 (H17=100)、対前年比4.6%増となり、5年連続で前年を上回った。

詳細は、P37に掲載

(単位: H17=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	106.2	3.5
第2四半期	108.8	4.9
第3四半期	112.2	7.3
第4四半期	107.8	2.6
H20年	108.8	4.6

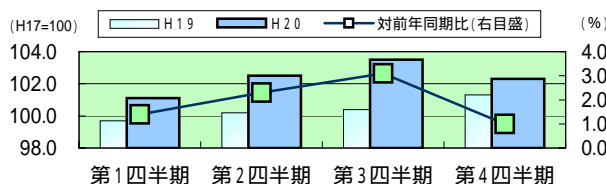



- (2) **福島市消費者物価指数(総合)**は102.4 (H17=100)、対前年比2.0%増となり、3年連続で前年を上回った。

詳細は、P39に掲載

(単位: H17=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	101.1	1.4
第2四半期	102.5	2.3
第3四半期	103.5	3.1
第4四半期	102.3	1.0
H20年	102.4	2.0



企業関連 変化方向  **収益は減少し、企業倒産は増加し、予断を許さない状況が続いた。**

- (1) **全産業の経常損益** (日本銀行福島支店「全国企業短期経済観測調査 福島県分」の調査結果より)は29.0%減となり、7年振りに減益となった。 詳細は、P41に掲載

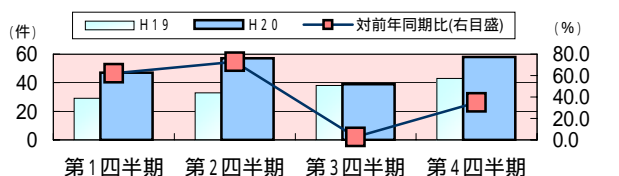
(単位: %)

	対前年比
H20年	29.0

- (2) **企業倒産件数**は201件、対前年比40.6%増となり、2年振りに前年を上回った。 詳細は、P43に掲載

(単位: 件, %)

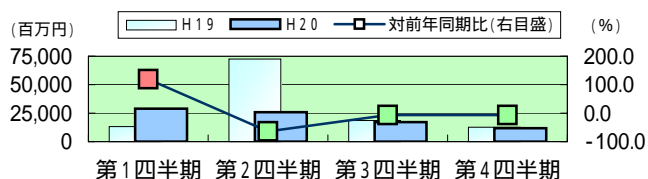
	件数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	47	62.1
第2四半期	57	72.7
第3四半期	39	2.6
第4四半期	58	34.9
H20年	201	40.6



企業倒産負債総額は837億7,300万円、対前年比28.2%減となり、3年振りに前年を下回った。

(単位: 百万円, %)

	負債総額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	28,957	118.7
第2四半期	25,894	64.3
第3四半期	17,230	6.4
第4四半期	11,692	6.5
H20年	83,773	28.2

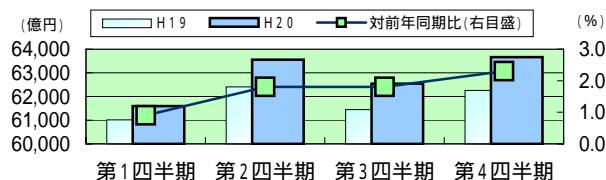


金融 変化方向  **預金、貸出ともに増加した。金利は低下した。**

- (1) **金融機関預金残高**は総額6兆3,665億円、対前年比2.3%増となり、2年連続で前年を上回った。 詳細は、P47に掲載

(単位: 億円, %)

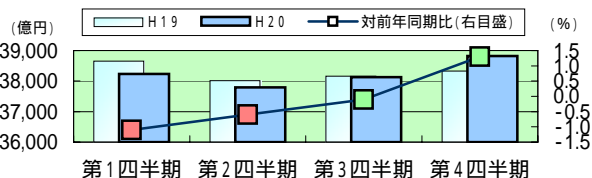
	預金残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	61,590	0.9
第2四半期	63,556	1.8
第3四半期	62,534	1.8
第4四半期	63,665	2.3
H20年	63,665	2.3



金融機関貸出残高は総額3兆8,818億円、対前年比1.3%増となり、2年振りに前年を上回った。

(単位: 億円, %)

	貸出残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	38,237	1.1
第2四半期	37,796	0.6
第3四半期	38,133	0.1
第4四半期	38,818	1.3
H20年	38,818	1.3

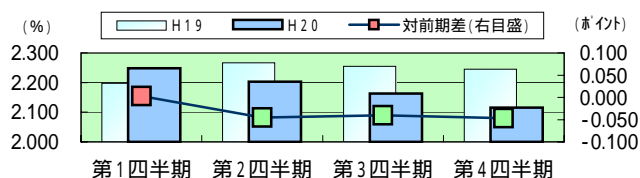


(2) **貸出約定平均金利**は地方銀行で2.116%、対前年差0.129ポイント低下となった。

詳細は、P49に掲載

(単位: %、ポイント)

	金利	対前期差 対前年差
第1四半期	2.248	0.003
第2四半期	2.203	0.045
第3四半期	2.163	0.040
第4四半期	2.116	0.047
H20年	2.116	0.129



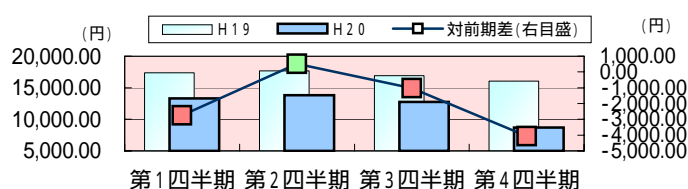
市場 変化方向 **株価は低調に推移した。円相場は円高で推移した。**

(1) **東証一部日経平均株価**(225種、期中平均値)は12,150円80銭、対前年差4,845円53銭安となり、5年振りに前年を下回った。

詳細は、P51に掲載

(単位: 円)

	株価	対前期差 対前年差
第1四半期	13,286.62	2739.98
第2四半期	13,809.60	522.98
第3四半期	12,777.19	1032.41
第4四半期	8,719.29	4057.90
H20年	12,150.80	4845.53

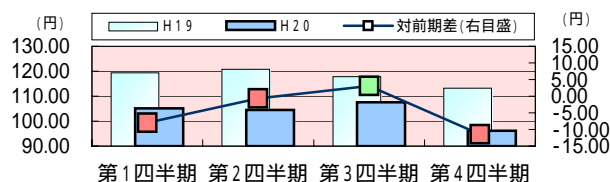


(2) **東京外国為替市場の円相場**(対米ドル、期中平均値)は103円39銭、対前年差14円38銭高となり、4年振りに円高となった。

詳細は、P51に掲載

(単位: 円)

	円相場	対前期差 対前年差
第1四半期	105.16	8.00
第2四半期	104.52	0.65
第3四半期	107.61	3.10
第4四半期	96.18	11.44
H20年	103.39	14.38



景気動向指数 変化方向 **急速に下降した。**

(1) **福島県景気動向指数**(CI一致指数)は、平成20年に入り急速に下降した。

詳細は、P53に掲載

(単位: ポイント)

	CI一致指数	対前期差 対前年差
第1四半期	101.0	3.7
第2四半期	95.8	5.2
第3四半期	85.4	10.4
第4四半期	68.5	16.9
H20年	68.5	36.2

(年値は年末値)

